



学校と家庭が連携して、道徳教育を推進していきたいと思えます。
学校で行った道徳の授業についてお知らせいたします。家庭で話し合ってもらいたいことをもとに、お子様といろいろな話をして下さい。
また、保護者の皆様の経験にもとづく話もできればとてもよいと思えます。
よろしくお願いいたします。

★資料名

卵焼き

★今回の道徳の授業のねらい

家族の幸せを考えて、進んで役立とうとする心情を育みます。

★お話のあらすじ

主人公の学校の先生が小学生だった頃、遠足のお弁当に卵焼きを作ってもらった時の回想文です。遠足前夜、母に大好きな卵焼きをお弁当に入れてほしいと頼みますが、卵を切らしていたので、両親は我慢するように言います。主人公は泣きじゃくりながらごねて眠ってしまいますが、当日のお弁当には、卵焼きが入っており、それは父が夜遅くに遠くの知人宅から分けてもらったものだという事を母から聞かされるというお話です。

★子どもたちの授業のふり返し（抜粋）

- ☆今日は、家族の一員として、家族のためにどんなことができるか考えることができました。今日考えたことを実行することに加えて、私のために家族がしてもらっていることへの感謝もしたいと思いました。
- ☆最初家族にしてもらっていることを考えると、沢山あったので私が家族の負担が減るようにできることを増やしたいなと思いました。また、してもらっていることの感謝も大切なので、忘れず言うようにしたいです。
- ☆家族の一員として、お手伝いで、やったことのあることだけでなく、まだしたことのない手伝いにもチャレンジをして、充実した生活を送りたいし、家族を喜ばせたいなと思えます。
- ☆家族は自分のためにいろいろなことをしてくれて、ありがたいなという気持ちになりました。なので、自分も家族のために何かしてあげたいです。

★家庭で考えてほしいこと・話し合ってもらいたいこと

今回は、「家族の一員として」をテーマに、自分が家族のためにできることを考えました。
子どもたちは、皿洗いや食事の準備、掃除の手伝いなど自分なりに考えておりました。その中でも、特に注目した意見は「家族に感謝を伝える」という事でした。子どもたちは、日々の生活の中で、ご飯を用意してもらったり、習い事に行かせてもらったり、学校等へ送迎をもらったりという事が「当たり前なもの」となっていないのでしょうか。本来は当たり前なものではなく、家族の皆さんがいて、子どもたちを思う気持ちがあるからこそ、その行動が生まれてくるものと思われまます。これらが当たり前の事ではなく、感謝の気持ちを常にもつことも家族愛の一つなのかと考えさせられました。

家族と共に過ごすことができる時間は有限です。一度、子どもたちと家族との過ごし方について話し合う機会を設けてみてはいかがでしょうか。